



桑名市と中部電力株式会社との 包括連携協定

2024年3月28日
桑名市 中部電力株式会社

背景

包括連携協定の目的

連携項目

目指す姿（イメージ図）

ロードマップ（案）

令和6年度の取り組み

2050年の日本の推計人口は約1億500万人となり、東京都を除くすべての道府県で2020年より減少すると推測※1されています。少子高齢化と人口減少によって引き起こされる様々な社会課題は、桑名市を含む中部地域に共通するものであり、その解決策を考えていくことが重要となっています。

※1 出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<https://www.ipss.go.jp/>)

桑名市には、基礎自治体として、**多様化するニーズに対応し持続的に市民生活のWell-Beingの向上を図るという社会的役割・使命**があります。

そして、**解決策として時代に適応した市民サービスを実現する「スマートシティ※2」への転換**を目指し、桑名オープンフィールド構想を掲げ公民連携による様々な施策に取り組んでいます。

中部電力には、**中部地域に根差し、地域・社会とともに成長してきた企業として、地域・社会の持続的な発展に貢献する**という社会的役割・使命があります。

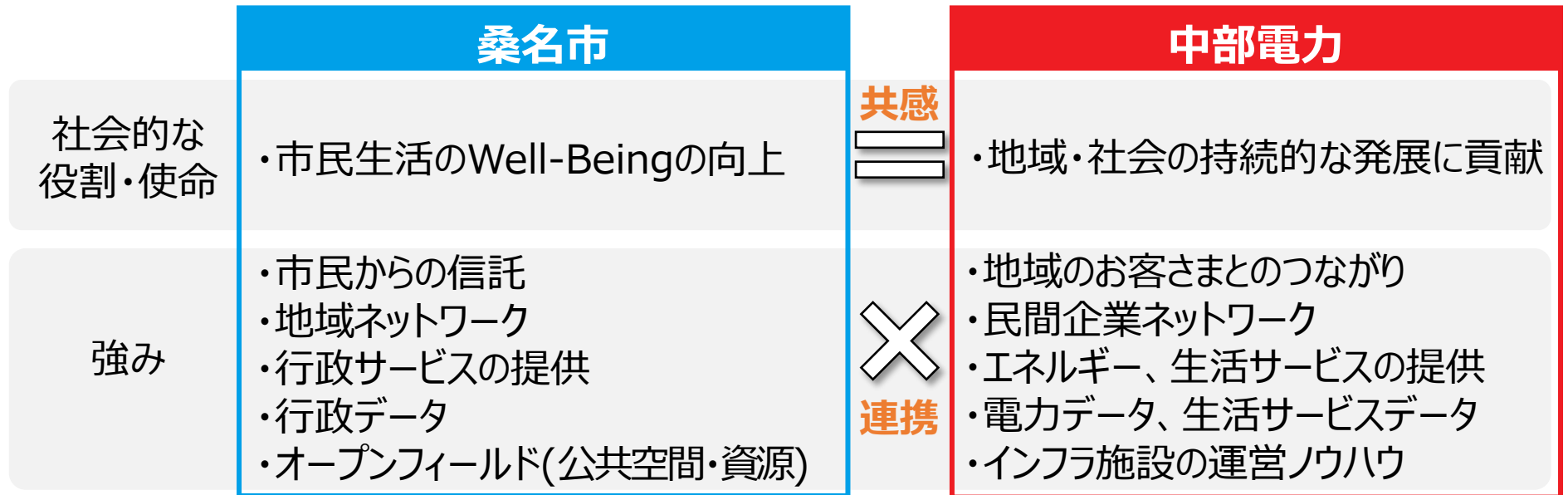
そして、**解決策として安心・安全・便利な生活が実現する「新しいコミュニティの形」の創造**を目指し、エネルギーサービスに加えて様々な新サービスの提供に取り組んでいます。

※2 スマートシティ：ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメントの高度化により、都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市。

包括連携協定の目的

桑名市と中部電力は、それぞれが社会的な役割と使命を持って取り組む姿勢に共感し、**公民連携で互いの「強み」を掛け合わせて「スマートシティ」の実現を目指す**こととしました。

これにより、桑名をフィールドとして、社会の変革や地域がもつ個性に対応するためのノウハウを蓄積し、**市民生活のWell-Beingを高めると共に、先進的なモデルとして中部地域の持続的な成長に寄与する**ことが本協定の目的です。



中部地域を元気に！

- 1 データでつながる便利でスマートなまちづくりに関すること
- 2 脱炭素社会の実現に向けたまちづくりに関すること
- 3 地域の魅力を活かしたまちづくりに関すること
- 4 その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

目指す姿（イメージ図）

データでつながる便利でスマートなまちづくり

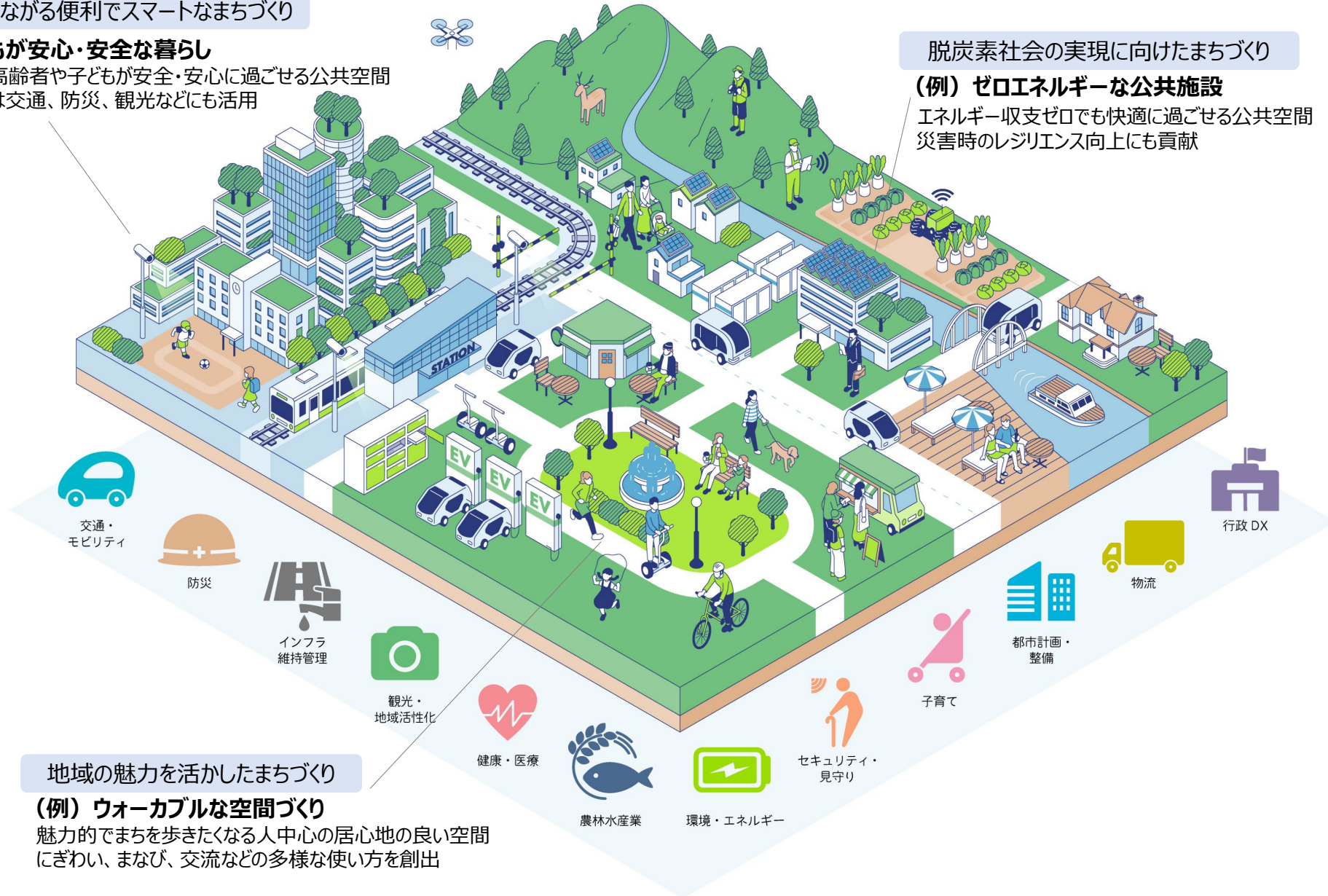
（例）誰もが安心・安全な暮らし

AIカメラで高齢者や子どもが安全・安心に過ごせる公共空間
解析結果は交通、防災、観光などにも活用

脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

（例）ゼロエネルギーな公共施設

エネルギー収支ゼロでも快適に過ごせる公共空間
災害時のレジリエンス向上にも貢献



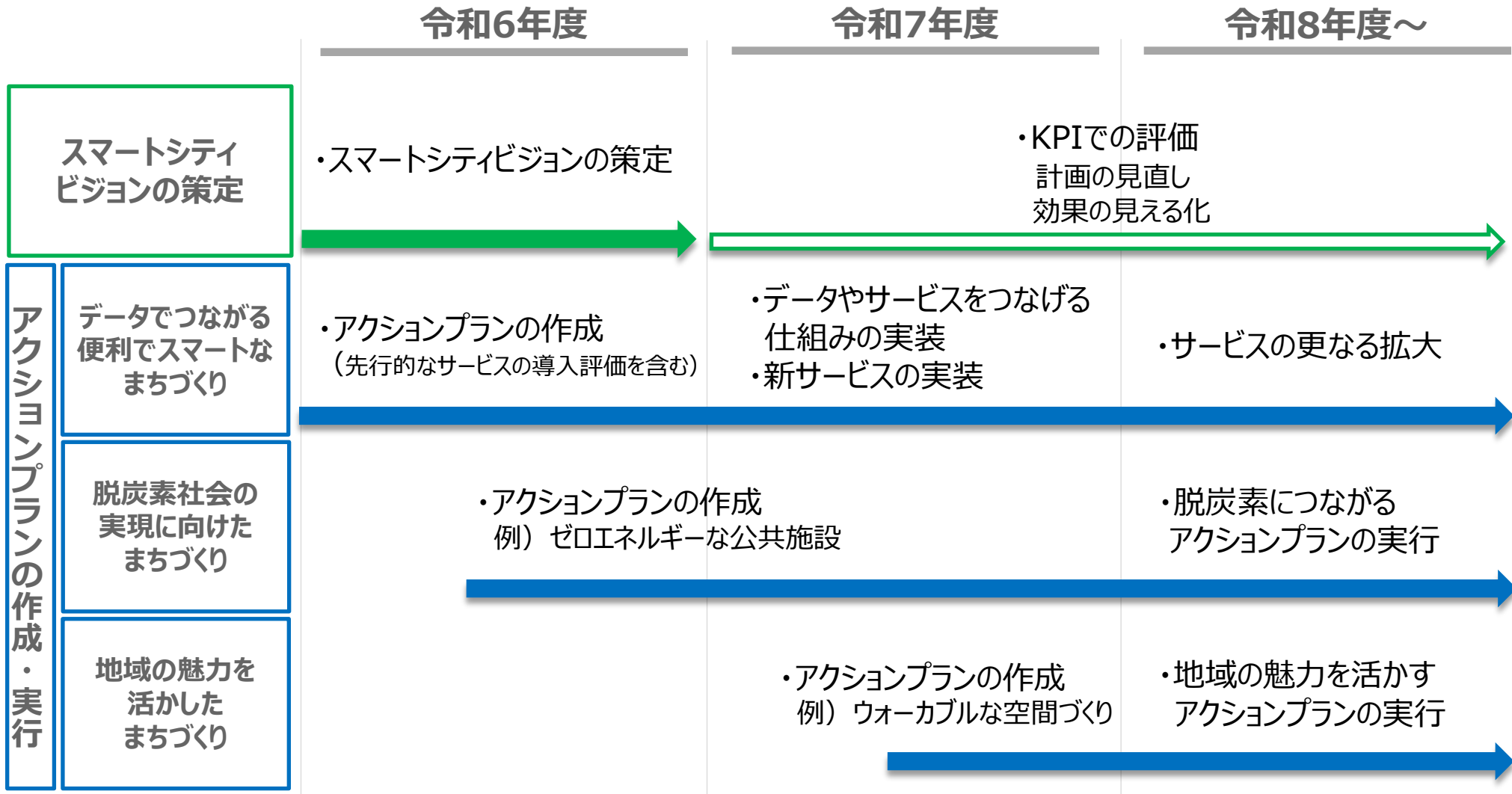
地域の魅力を活かしたまちづくり

（例）ウォークブルな空間づくり

魅力的でまちを歩きたくなる人中心の居心地の良い空間
にぎわい、まなび、交流などの多様な使い方を創出

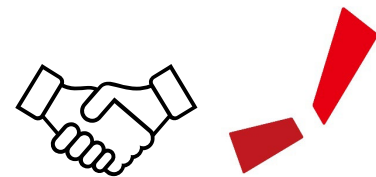
ロードマップ（案）

本協定では、地域の課題やニーズ等をふまえて、桑名市の**スマートシティビジョンの策定**、**アクションプランの作成**、およびそれらに基づくまちづくり（**アクションプランの実行**）を進めてまいります。



令和6年度の取り組み

初年度は、包括連携協定における取り組みの土台（ビジョン、アクションプラン）を築くための重要な期間と考えています。そこで、スマートシティへの転換を加速させるべく、桑名市と中部電力とで人事交流を行い、以下のような取り組みを行います。



中部電力

1 スマートシティビジョンの策定

- ・桑名市のスマートシティビジョンを策定します。

2 アクションプランの作成

- ・ビジョンを実現するためのアクションプランを作成します。
- ・先行的なサービス導入評価を行い、アクションプランへの反映や来年度以降の取り組みに向けたノウハウの蓄積を行います。

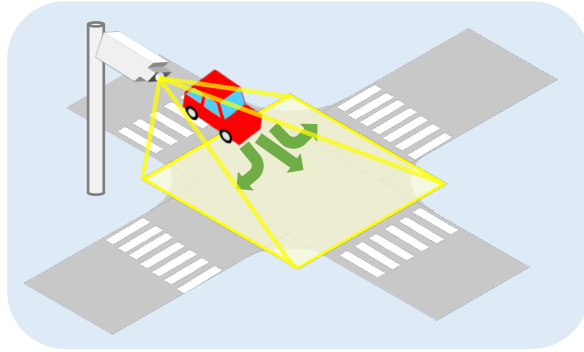
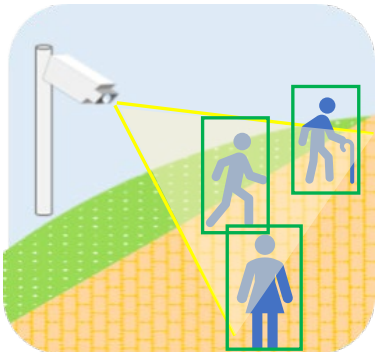
<参考> 先行的なサービス

交通量や人流など、まちづくりへの活用が期待できるデータが得られるサービスを先行的に導入し、今後の検討に活用していきます。

こうした取り組みを通じて、デジタル技術を使ったサービスの利便性を実感いただくとともに、市民のみなさまとスマートシティの実現に取り組んでまいります。

AIカメラを使った解析データ等の活用

AIカメラによる解析で、歩行者や交通量のカウント、性別や年齢の推定などを行い、得られたデータの活用方法を検討する実証を行う予定です。



※設置場所は未定

駐車場シェアリングサービス「特P」の活用

市民のみなさまがお持ちの駐車場や空きスペースを「特P」を用いてシェアすることで、イベントの際に発生する駐車場不足を解消・緩和し、渋滞などの交通問題の解決を目指します。

